

# 決算書を見る前に押さえておきたい

# これだけ覚える! 粉飾決算の基礎知識

六角明雄

中小企業診断士

粉飾決算はなぜ問題視されるのか? どんな手段があるのか? 取引先の財務を分析する際に理解しておくべき粉飾決算の基礎知識を整理する。

**基本1**  
粉飾決算が行われる  
3つの経緯を理解しよう



**粉** 飾決算とは、会社の業績を示す決算書に手を加えることで、「実態とは異なる」内容に変えた決算を指す。①良い業績を悪く見せかける場合と、②悪い業績を良く見せかける場合があるが、多くの場合は②を指しており、それを前提として以下では解説を進める。

セスである経理処理が稚拙であることよって起きる「粉飾」である。金融機関にとって好ましくないことではあるが、中小企業では、決算書作成の負担を避けたがる傾向にあること、経理業務に関心がないこと、経理業務への苦手意識があることから、まま見られる。

悪い業績を良く見せかける粉飾決算は、その経緯によって大きく3つに分けられる。

1つ目は、決算書の作成プロセスがある。棚卸資産について

具体的には、回収不能が見込まれる売掛金を損失として処理せずにそのまま計上し続けるケースがある。棚卸資産について

べき粉飾である。

会社法第431条では、「株式会社の会計は、一般に公正妥当と認められる企業会計の慣行に従うものとする」と規定しており、この「一般に公正妥当と認められる企業会計の慣行」とは、中小企業の場合、日本税理士連合会などが公表した「中小企業の会計に関する指針」を指すと広く認識されている。

**基本2**  
粉飾決算でよくある  
パターンを理解しよう



**数** ある粉飾決算の中でも多用されるのが、棚卸資産（在庫）を増やすことである。

益を増やす手法である。会計の初学者にとって棚卸資産の会計はやや複雑でつかみづらいため、棚卸資産の水増しでどのように粉飾が行われるのか、その基本を解説していく。以下で

は、会計処理が比較的シンプルな小売業を前提に説明する。まず、企業の売上総利益は、売上高から売上原価を差し引いて算出される(図表1)。  
・売上総利益Ⅱ売上高ー売上原価…A  
小売業の場合、このA式における売上原価は仕入高に相当す

現物を確認して計算する「実地棚卸」をせず、帳簿だけで棚卸資産を処理し、品質の劣化した在庫をそのまま決算書に計上し続けるケースもある。

**中小企業に多い 悪意なき粉飾**

2つ目は、会計年度末が近付いたときや会計年度を過ぎてから、赤字の見込みが強く、何らかの会計処理によって業績を良く見せかける場合である。経営者は粉飾を行うという意識がない場合が多く、「決算時の利益(損失)の調整」程度と考えている場合が多い。

例えば、正当な額の減価償却

るので、「売上総利益Ⅱ売上高ー仕入高」で求められる。

ただ一般的に、会社が販売する商品は、販売する時点よりも前に仕入れている。例えば決算日が3月31日の会社が、3月中旬に仕入れた商品を4月に販売したとき、その商品の仕入れと販売は別の会計期間で行われている。したがって、ある会計期間の売上高の合計額と、仕入高の合計額の差額が、そのまま当期の売上総利益とはならない。

**期首期末の在庫も勘案し 売上原価が算出される**

そこで、商品を仕入れた時点では仕入額をただちに費用(売上原価)とはせず、いったん棚卸資産として貸借対照表に計上する。販売された時点で、その商品の仕入額を、売上を得るために必要となった費用として処理する。これを「費用収益対応の原則」という。このことを踏まえると、1つ

費を計上しない、納品が翌期となる受注を当期の売上計上するなど、その場しのぎの会計処理で行われる。中小企業の30%程度は、この種の粉飾を行っているといわれている。

3つ目は、悪質な粉飾決算である。上記2点よりも強い意図をもって粉飾を行うもので、いわゆる二重帳簿を作成している場合が多い。

その場しのぎの利益調整程度ではなく、手間をかけて計画的に粉飾するため、部外者には気付かれにくく、倒産して初めてその会社が長期間の粉飾をしていたことが分かったという場合も多い。金融機関が最も警戒す

の会計期間を通しての売上原価は、次のように計算される。

・売上原価Ⅱ期首商品棚卸高＋当期商品仕入高ー期末商品棚卸高…B

商品棚卸高は在庫の金額を指し、前期の期末商品棚卸高は、当期の期首商品棚卸高に該当する。このB式から分かるとおり、前期の期末商品棚卸高は当期の期首商品棚卸高として費用(売上原価)に加えられ、当期の期末商品棚卸高は費用(売上原価)とはされず、翌期の期首商品棚卸高(棚卸資産)として引き継がれる。

つまり、仕入額だけでなく、当期の売上原価とならず翌期に資産として引き継がれる在庫も考慮することで、当期の売上原価が算出される。こうしてB式の売上原価をA式に当てはめ、当期の売上総利益は「売上高ー売上原価」で計算できる。  
売上原価が少なければ、売上総利益は多くなる。さらに、B